

令和２年度 みんなの人権・小地域懇談会を終えて

令和２年度は、前年から続くコロナ禍を抱えての難しい町行政運営となりました。人権施策の分野でも、コロナ禍に伴って表出した多種多様な人権にかかる問題が報道され、成熟した優しく穏やかな社会という幻想を吹き飛ばしたように感じる時もあります。しかし、マスコミの報道は一部の事案を刺激的に取り上げ、クローズアップしている面があるとも思っています。鳥取県内、こと本町内の大多数の皆さんは、前年来、感染予防、拡大予防に留意し努めてこられ、その成果が維持されていますし、コロナ禍に関わる差別事象の発生もありません。町民の皆さまの自らの健康を守り、他者の健康・人権を守り、地域社会を守るためご努力に深く敬意を表します。

前述のとおり、昨年来、日本中でコロナ禍に関わる人権侵害事象が報道されてきました。現在、この町で目の当たりにすることはなくとも、感染症というもの人権を傷つけるケースは古くから知られています。足羽隆人権教育推進員（故人）が熱心に啓発に取り組み、町民の皆さまの多くがご存知のハンセン病患者・回復者への差別も感染症にまつわるものです。

感染症の原因であるウイルスや細菌は目に見えません。目に見えないが故に不安や恐怖は膨らみ、目に見える仮の敵を仕立てあげて攻撃し自己防衛の達成感を求めるのが常と言われています。それがいわれなき差別になります。

こうしたことが本町で起こることのないよう、令和２年度の小地域懇談会は「コロナ禍に考える・感染症と人権」をテーマに取り組みました。室内に集まった懇談会は、感染の危険性もあるのですが、今、目の前にある人権課題として開催を呼びかけたところ、多くの自治会で開催いただきました。会場では、職員の説明を傾聴いただき、コロナ差別をしない強い意思を伺ったと聞いております。本当にありがとうございます。小地域懇談会でお世話になった皆さま方に、重ねてお礼を申し上げて巻頭のご挨拶にさせていただきます。

令和３年５月２０日

日南町同和教育推進協議会会長

日南町長 中村 英明

2. 「みんなの人権・小地域懇談会」話し合いの中で出た意見

※感染症予防のため、意見交換の時間を短くしました。ご出席の皆様には大変申し訳ありませんでした。

■懇談会のテーマ設定、運営方法等について

1. タイムリーな題材で話をする事ができた。家庭に持ち帰り伝えてもらいたい。
2. コロナ禍を他の感染症の例と比較するのはどうなのかな？

■小地域懇談会の評価

1. 今回の懇談会で使われている日本赤十字社の資料を何回か見た。第2の感染症の「不安」「恐怖」は人間の本能なので仕方がない。そのうえで自分たちはどうしたらいいのか。「気づく力」が大事になるということが、今回の会で分かる事ができた。幅広い考えを持ちたい。第3の感染「差別」も起こり得る自然な気持ち。それをどうするのかを、気づかせてもらうのはこのような勉強会に来ないといけないと思う。今回は参加者が少ないと思う。
2. 今日は参加者が女性の方が多いし、若い方もおられ将来の湯河を背負っていく皆さん。同和問題などは避けては通れない。人権問題は多く、家庭内にもある。1年に1回でもこういう話を聴くと反省する良い機会になる。コロナとどう戦うか、病気だけでなく、人権の問題においても。コロナの禍（わざわい）から抜け出せることを期待している。その時は自分も成長していきたい。

■コロナ禍での人権尊重に前向きな意見

1. 日南町で第1号の感染者が出ても差別をしない。
2. 今は誰の心にも不安と怖れがあるが、それが誰かを攻撃する方向に向かわないよう考えたい。
3. 誰もが偏見はいけないと言っているけど、大なり小なり、偏見を持ってしまっている。相手の立場になって考え、振る舞うようにしたい。
4. 差別をしたくないと思うが、知らず知らずのうちにしまうことも。アンテナを高く広く張り、学び続けることが大切と思った。
5. 忘れない、学び続けることが大切だと思った。良い形を見つけていきたい。
6. 遠方に家族がおられる方が多い。一人でいると不安が強くなる。人を信頼することで、繋がれないけど繋がる。心を孤独にしない。怖がることは当たり前の感情。島根県の感染者第1号の例では、住めなくなり県外へ。日南町で発生したときに、そうならないよう心の準備ができる会になったのでは。

7. 自分の中にも怖れとか葛藤している。西部に発生すると警戒したりする。日南町の感染者第1号が出て追いつかない事。島根県の松江市で発生した家族は結局引っ越しされた。これではいけない。みんなで支えあう日南町になってほしい。
8. 園児が「ウイルス汚い」と言う。予防する習慣は必要だが、そうした感覚だけで良いのかとも思う。コロナウイルスというものをきちんと理解して子どもたちに伝えていきたい。
9. コロナウイルスは病気の予防に苦労するだけでなく人のパワーを奪っていく。町内に発生した場合にも、この町に住めなくなるような状況にはしたくない。どこからウイルスが入ってくるか分からない状況。心の健康を保つことで、人への攻撃心も持ちにくくなるのでは。
10. コロナで1年が終わろうとしている。大きな声を出す人に引きずられるところや、情報に惑わされたりする。何が本当なのかきちんと自分で見極めることが必要。ワクチンも未知。自分の悪いところがさらけ出される状況で、自分を正していきたい。
11. コロナ禍は人のふれあいや人の交流を絶えさせた。心の閉塞感に繋がっていると感じている。悪いのは人ではなくウイルス。松江市の島根県感染者第1号の親子は、松江市に住めなくなった。日南町で第1号が出た時の対応を、松江市の例のようにならないように準備しておきたい。温かい声かけられるような日南町でありたい。

■感染症と差別について気づきがあったという感想

1. 資料で紹介された映画「砂の器」の場面を思い出した。ハンセン病の話だということを後で知った。今日話を聴いてまた観たくなった。今コロナ禍だが、これからなにが起こるか分からない。デマによる差別はくい止めないといけないと思うので、今日の話は良い機会になった。
2. (ハンセン病患者隔離施設だった)長島愛生園、昔はそこには高校もあった。娘がその看護学校に行った。30年前だが「あそこに行ったら怖いですよ」と言われた。患者、回復者の中には実家のお墓にも入れてもらえないこともある。悲しい事実である。
3. コロナ禍の最初の頃、島根県に感染者が出た時、家族で話し合った。わけの分からないものへの恐怖はみんな持っているんだと思った。
4. 今日初めて「感染症と人権」について聴いた。人間の心の弱さの問題だと思う。皆がコロナにかかりたいわけではないので人権を大切にしていきたい。
5. 良い話でした。新型インフル、SARSに比べて今回はSNS等で被害を受ける人が多いのでは？住民で対策するのは難しいのでは？過去から感染症の大

流行の歴史があるが、社会的に対策が出来ていなかった。

6. 分かりやすい説明でした。コロナ禍の中の家族や、周りの人との関係をどう考えたらいいか分かりました。人間の心の弱さ、価値観があつと言う間に変わってしまう怖さも知りました。正しい情報の見分け方、他人を傷つけないようにしたいと思いました。

7. 感染の多い都市部と、感染が出ただけで騒ぐ田舎では住民の感じ方が違います。日南町ではまだ発生していないので、この人権学習はタイミングが良いと思いました。認知症と同じで、自分は違う、ではなく、自分もいつかかかるかもしれないと思って、その時に、自分だったらどう対応してほしいかを考えて対応してほしいと思いました。

8. 正しいことを正しく伝えていくことの大切さを感じた。

■感染予防と人権尊重のバランスに関する意見

1. コロナの関係で介護サービスも受けられないことがある。その間に皆がガマンガマンで生きていくのはおかしいと思う。その中でどうやって生きていくのかを考える。自己責任であると思うが、自分が患者になったらと不安にもなる。コロナ禍の中でうまく楽しく、どうやったら皆が生きていけるか話し合っていたいと思う。

2. 話を聴いてあらためてコロナの怖さを感じ不安を感じている。Go to Eat 等批判もあるが、旅行業等の方のことを考えると…。いつかはワクチンで予防できる日が来るかも。自治会の活動にしても迷うところがあるが、線引きができれば訳の分からないことを言うようなこともなくなるかな。

3. 感染するリスクを考えて行動することで差別などが発生するが、どこから差別なのか？線引きは困難。感染に対する指摘に対して差別と断定するのは難しい。

4. 感染のリスクを考えた時、どこまで活動を縮小するのか判断に困る点もある。

5. 町の感染者第1号になりたくないという考え方も差別ではないか？

6. 地域の会合は大事。コロナだからと止めてしまえばコミュニケーションの場が無くなる。これも避けたい。

7. 口には出さなくても北海道に行ったとか…。あかねの郷などで出たら大変。行動には気をつけてほしいな。情報自体がフェイク（嘘）だったり。

8. 発信元も分からない。日本はまだ大丈夫って気がある。Go to Eat で出かけた人もいる。身近な人が忌避の対象にならないように。

9. 誹謗中傷されても仕方ない行動をして感染した人もある。差別されても仕方ないケースも、差別されてはいけないケースもあると思う。

10. 国も無責任。感染増加防止と経済対策。Go to Eat が感染を助長してもいる。

拡大防止も、経済支援も両方でなければ世の中回らない。医療従事者は大変な苦労があるだろう。人権の問題かどうか分からないが、バランスが難しい。

11. 今、鳥インフルが流行っている。自分は人間で良かったなという人がいる。

1 羽出たらみんな殺される。感染症とは別なウイルスだけど、日本人だけがかかる病気なら、かかったら殺されてしまうという感覚に子どもがならないでほしい。報道も気をつけてほしい。狂牛病の時もそうだった。人間のワクチンは出来るのに、鳥のワクチンは難しいのだろうか。全部殺されるのもどうかと思う。

12. 野生動物がウイルスを持ってくるから。

13. (希少種の) コウノトリやトキが感染症にかかったらどうするのか？

14. 鳥取県もずっと検査はしているみたい。だけどコハクチョウがかかったらどうするんだろう？

15. (回答) 人権講座で優生学・優生思想の話をした。ナチスドイツはユダヤ人や障がい者を殺して排除した。日南町でコロナ感染者が出れば町の人が全部殺される、という理屈になる。

16. 鳥根県第1号は松江市の高校生だった。行動が非難されて人生を変えてしまった。それでよかったのかと思う。テレビで、小さな漁村の漁師が感染者第1号になった話を観た。退院して家に帰ると、皆が避けていく。みんなコロナが怖いんだと思った。しかし漁師仲間がこのままではいけないと「おはよう、今日はどうだった？」と声を掛けてくれて地域に戻れたそう。

■感染予防策・人権擁護策への意見

1. 政府のマスクが届いたが、している人を見ない、あれ、町として活用したら？

2. 政府のマスクは子ども用に使えないか？集めて外国に送るとか。そういう使い方が出来たらいいなあ。

3. コロナのことがよく分かっていないので、決して怖いものではない、インフルエンザと対比してこうだ、というようなものを示して不安を取り除いてもらえるといい。

4. 行政には不安や恐怖を取り除く手法を期待する。

5. マスク手洗いだけでいいのか。高齢者、持病のある方など一律ではない。

6. ワクチンができればOKか？さらに強烈なウイルスに進化もする。

7. ワクチンの効果もまだ分からない。自分で予防するしかない。

8. 不安に思うことなど、言っではいけないと思わずに相談してもらいたい。

9. ハンセン病やHIV。誤解による恐慌（無い物があるとってしまった）。

コロナ、福島原発。在る物を無いと言うことは怖い。リスクの高い中で頑張っている人に対して人権尊重の意識を持つだけでなく。金銭的なことなど手厚い支援が必要だと思う。

10. コロナのことを正しく知ったうえで共存しながら生活できるか。
11. 感染予防の方法、マスクの扱い方など具体的に教えてほしい。
12. 感染地域に行かない、その人とは接触しないことが、今は自分や周りの人のためには必要。
13. 趣味等、行動を変えるべき所もあるのでは？
14. 日南町で感染者が出た場合の対策の準備ができているか？
15. 国のコロナ対策交付金の町の使い方について教えてほしい。
16. Go To キャンペーンには疑問がある。
17. 感染者が出ない事、出さない事、確実に出さないこと。
18. まずは感染しないこと。
19. 国はGo-to-Eatを進めた。経済のこともあるので。

■「コロナ禍の人権」についてさらに啓発を求める声

1. 分かりやすいお話で、今日来られた方はよく分かったと思う。来ておられない方のために可能なら資料の全戸配布をしてほしい。字も大きく高齢者にも分かりやすい。
2. 町として差別、偏見をしないという姿勢、きちんとした体制を早めにとっていただきたい。ちゃんねる日南等を活用して。町に感染者が出た時に差別、偏見が起きないようにしたい。

■感染への不安、有事に人権を守れるか、の不安の声

1. いろいろな話を聴いて不安や恐怖につながる。自分がかからないようにSNSの発信を調べることも自己防衛じゃないかと思う。この前、熱が出て不安になった。接触した人は多かったし、家族にも気を使った。気をつけているが、コロナにかかった人の精神状態は大変だろうと思った。
2. 仕事柄大変。具合が悪くても言い出せない。日南町の感染者第1号になりたくないから隠したい。
3. かつては精神障がいの方などを土蔵に閉じ込め隔離した。そういう目に遭いたくない。遠ざけられたり。なりたくない。
4. 生き延びようとする本能がある。かかりたくない。ワクチンができれば変わってくるだろう。今のインフルエンザくらいの扱いになるかも。
5. 町の感染第1号になりたくないのは、やはり差別意識が自分の中にあるからではないかと思う。
6. 医大に入院していたが、医大生がコロナにかかったと聴き、早く帰って良かったと思った。
7. 洗脳って言うけれど、もっとゆったりした考え方がいい。

■コロナ禍の社会状況について

1. コロナ禍の終息はいつ頃になるのか？
2. 経済と思いと感染症対策。町の行事も中止。地域内の差別を呼ばないために遠方の親戚等にも「今年は戻るな」と言う。地域として考えていかないといけない。地域の中で一人出たら、すぐそれ（誹謗中傷）が起きる。住民は情報が少ないから、行政が方針とかを示してほしい。
3. 日南町で一番になるなよ、と子どもが言う。
4. SNSでの情報が多い。何が正しいのか考え、大人としての行動が大切になってくる。
5. 東京の人で「家の中でもマスクして」と言われたと聴いてビックリしたし、ひどいことを言うな」と思った。でも、東京ではそこまでしないといけないのかと考えさせられた。
6. 人とのつながりが失われている。会わなくてもつながれたら。
7. 感染の危険性があるとはいえ、働かないわけにはいけないので、できる限りの予防を行いつつ活動すべき。
8. 情報の真偽の調査、選択は必要だろう。
9. フェイク（嘘）ニュースが広まっている。何が正しくて嘘なのか、分からない。
10. コロナ禍、いつ終わる？誰にも分からない。誰かに答えを求めると責任を押し付けるのと似たところがある。
11. コロナに限らず、ヨーロッパ等、宗教的な差別が多い。洗脳される感じ。現在もニュースでは毎日感染者何人という話ばかり。このことは必要なのか？報道が行き過ぎていないか。
12. 米子市の話だが、子どもは自宅から出ないようにしているのに、親は大阪に行くという。子どもに行くか？と聞いたら子どもは行かんと言ったそうだ。
13. 報道も悪い。
14. 過剰すぎるかな？

■その他

1. 日南病院のインフルエンザワクチンが不足している、通院者以外は控えてほしい、という放送があった。差別になるのでは？きちんと説明をつけた方がいい。
2. 確かに。説明がないことで誤解が生まれる。
3. 100歳体操とこの懇談会が持てたのは、地元の世話役の方の尽力のおかげ。感謝します。
4. 怯えて後ろに下がったことはない。

3. 「みんなの人権・小地域懇談会」アンケートで書かれた意見

■懇談会のテーマ設定、運営方法等について

1. 発表や意見交換の時間（機会）が少なかったようでしたが、自分で出来ること（感染対策）をしていきたいと思います。
2. これまでの懇談会の中で一番よく理解できました。
3. 終りのない人権問題です。次から次へと正しい答えのない大変な問題ですネ。
4. 今日の話は分りやすくて良く聞かせてくれました。
5. 貴重な発表であり、今後の生活に取り入れたいと思います。毎年参加しています。
6. 良い話が聞けたと思います。
7. これまでの（差別）人権懇談会とは異なり、コロナ禍のことなので是が非でも聞きたくて参加しました。とてもよくわかりました。ありがとうございました。
8. 「感染症と人権」との説明で理解できる面より考えて行こうと考える面を思いました。
9. 今年は参加者が増えてよかった！
10. 人と人の話し合いが出来ました。楽しかったです。
11. 改めてコロナ差別について勉強ができてよかったです。
12. コロナの中で旬の話題をわかりやすく説明して頂けて良かったです。
13. 繰り返し学ぶことが大切だと改めて思いました。リモート式があってもよいと思いました。
14. 資料に沿ったわかりやすい説明でコロナを中心とした人権学習ができ、参加して良かったと思います。もう少し多くの参加があれば良かったです。ありがとうございました。
15. 講義も含めてビデオ等、目に見える研修も必要だと思います。
16. わかり易かったです。
17. すごく館長さんがいろいろな面で学び、みんなに伝えようとしておられる姿に感動しました。ありがとうございました。
18. 言葉の内容がわかりやすく良かった。歴史等の勉強、役に立った
19. 意見は発言しなかったけど思いは同じだと思いました。いい感じで研修ができて良かった。
20. コロナのお話でしたがよく分かり、改めて勉強させていただきました。ありがとうございました。
21. 今回のテーマは小地域で考え合うにはとても良い意見交換だと思いました。ただ、参加者が相変わらず少ないのが寂しいかぎりです。
22. みなさんの意見を聞いてほとんど共感しました。「感染症が治って帰ってき

た方を笑顔で迎える町でありたい」と職員の方から言っていたので有難うございました。次回からは意見を一つでも発表したいと思います。百歳体操がはじまっていろいろ意見交換しています。

23. まだまだ勉強不足ですが、この会を継続していただきますようお願いします。

24. 館長のお話がとても分かりやすかったです。

■コロナ禍での人権尊重に前向きな意見

1. 感染症は恐ろしいが、今できることを見直すことが大切と思いました。

2. 誰かがコロナに感染しても、温かく迎えてあげられる福栄地域でありたいと思った。私もそうでありたいと思います。

3. 他人を厳しく見るのではなく、思いやっていく暖かい心を持つことが重要だと思った。他の人が間違った事をしていれば、間違っていると言うことが大事。

4. とても勉強になりました。一人一人が気を付けていきましょう。みんなのために、自分のために！！

5. コロナ禍はまだ続きそうなので、今回の話をもとに関わり方を考えて行きたいと思います。自分だったら？という事を考えられる自分になっていきたいと思います。

6. 今の若い人たちが良い事を引き継いで行って欲しいと言う言葉に大変心打たれました。どうぞそうあって欲しいと率直に同感です。コロナに関しては自分で出来ることをきちんと行うことに心がけています。都会で暮らす子供たちにはいつも意見は声を大にして言っています。

7. 正しく知り、付き合っていくことが大切。

8. 他人事と捉えず、自分に置き換えて人権について考えていきたいと思う。

9. コロナ禍の中で人と人とのつながりを大切に、自分のかからないように気をつけましょう。

10. それぞれの家の中で身を守る環境をどうすればよいか話し合うことを常の生活にしたい。閉鎖的な考えより前向きに広い環境で集えばいいと思う。健全な心を大切に！

11. 参考になりました。新しい社会生活の徹底を図り感染対策を図りたいと思います。

12. 皆助け合っていきましょう。そして皆に親切にしようと思いました。

13. コロナの正しい知識と人権意識が大切。かかってしまった人は患者さん。一つの病気としてねぎらうことが大切。

14. 差別をしない気持ちは持ちたいが自信がない。が自分がされたと思って頑張ってみようと思う。正しく理解することが大切だとよくわかりました。日頃から良い人間関係が築かれていれば思いやりが先行できるような気がしています。

基本的な予防行動を守っていきます。

15. 日南町でコロナの第1号発生したとき、病気になっただけでも大変なのにそのうえ差別や偏見の痛みにさらさないように、という思いになりました。
16. 偏見等、色々な行事等、今後消滅しないようにしたいと思う。気持ちを強く。
17. コロナの時代を生きていく、みんなの力を合わせて。
18. コロナ禍の中でいかに病気と共生するかという事を改めて考えさせられました。偏見や差別を生むような行動や言動は、しないように生活していきたい。
19. 何を私たちは、このコロナ禍で人権について学ぶのか。子どもに何を伝えていくか、大人の行動を伝えていける姿をみせたいものです。
20. コロナについての知識をもっとつけていかなければならないと感じた。
21. 悪役を探す習慣が町には多い。うわさ、悪口、プライバシーをどう尊重するか皆が考え、実践行動をおこす働きが必要ですね。
22. 怒りや憎しみが人に向かわないように心がけたいと思います。
23. いろいろな場面での「自分の差別しない考え方」をしっかりと考えておきたい事と、情報に流されず、自分の頭で考えていくことを習慣づけたい。
24. 自分が経験させられたらいやな事は言わない。行動しないことが大切なのではないでしょうか！正確な情報を聞く、学ぶ事！
25. いろいろな情報を正しく判断できる知識が必要だと思います。
26. コロナに負けない心を持ちたいと思いました。

■感染症と差別について気づきがあったという意見

1. 人間の弱さが差別を生み、広げていくことが解りました。
2. 見えない敵（コロナ等）への不安・恐怖が差別につながってきている…差別を生む流れとしてみんな社会が壊れていく…よくわかりました。新し生活様式が一日も早く、元の生活様式にもどれるようになってほしい。
3. 普段、何気なく話している内容が、知らず知らずのうちに差別しているのではないかと考えさせられました。そうなる怖いなと思いました。まだまだ考えていかなければならない問題だと思いました。
4. 一番怖いのは人間だと思いました。情報だけに惑わされないようにしたいです。
5. コロナについての再確認が来て良かった。まだ差別意識があるのも…差別と違ってなく行動している事にも怖さを感じた。もっと強い心の持ち主になる！
6. 口を開けば「コロナ」が出てしまう現実、終息への明確な道筋が見えていない中で不安が広がるのは、やむを得ないのかも知れません。ただ不安を抑えるのも一人一人だと思います。気持ちを強く持って冷静になる！ということが一番求められているのかも…と感じました。

7. コロナが出たと聞くとどうしても偏見が出てしまうので、自分のところが出たりした時のことを考えていかないといけないと思った。
8. 目の前の情報に疑問を持つことが学習？につながると思う。
9. コロナ禍の対応…なかなか難しい事だなとつくづく思われた。
10. コロナのことが分からなさすぎて差別的な発言をする場によく居合わせる 경우가多くあり、いろいろ考えさせられることがあります。
11. 県外の母が亡くなったときに、帰省すると、お悔やみの一言もなく帰ってから2週間介護サービス休止と言われ悲しかったです。わかりやすい資料でよかったです。身近な家族や近所の方々に広げていきたいと思います。
12. 今日はありがとうございました。コロナ禍の中で今一番、誰もが考えている事を取り上げてあり、さらに考えることができ有難うございました。
13. 大変参考になりました。ありがとうございました。もう少し自分なりに勉強したいと思います。気を付けていきたいと思います。
14. 今回も勉強になりました。
15. コロナ禍のなかにあつて人権問題との関係を話して頂き、改めて人権について新鮮な気持ちになった。
16. 新しい切り口での研修でした。来年もよろしくお願いします。
17. 自分も見えないものを恐れて敵を作ろうとしていた。
18. コロナ発生が近隣に出始めるとついつい患者を非難するような言動をしていたように思いました。病気に対しては、病気は不安であっても病気になった人が悪いわけではないんだと、ハッと気づきました。自分の中にまだまだ差別の芽、偏見の芽があるんだと思います。それを育てないようにしなければなりません。
19. 不安から心の中に差別偏見が生まれることを自然に感じる所がある。情報に流されやすく、心の変動があるので勉強になりました。
20. (原発賛否に絡んでの)「大人の事情」については大切だけど、個人のイデオロギーの中で考える少し別の問題だと思います。いろいろな例の中で共通なものをみつけて確認できました。信じすぎない、考えないで広めない、犯人捜しをしない。がんばります。

■感染予防と人権尊重のバランスに関する意見

1. 誰も自分や家族に健康の被害を与えたくないために可能な限りのリスクを排除したいと思う。正確な情報が無ければ過大な回避行動をとると思う。その結果、旅行や、家族の帰省を止めたりしている。他人に文句を言ったり、SNS投稿したりするつもりも陰口を言ったりするつもりもない。リスクを避けたいから感染者には近づかないし、その家族にも近づきたくない、そうされたくなければ正確な情報を公的機関から発表すればいい。隠すから思い込む。

2. 県条例、町条例で施行し、プライバシーを守りながら感染者の追求も必要では。
3. 自分の心の中も弱く、見えないものへの不安や恐れから、問題をすり替えてしまうことがおこりがちです。西伯郡で発生、と聞くと、どこ？と知りたくなる気持ちが動いたりします。すべきことは同じであるのに。正しい知識を持ち正しく恐れることが大切であると思います。人権意識は磨き続けたいです。
4. 自粛しておられる方々にも、普通に生活している私にも、正しい知識で正しく恐れ、片寄りすぎないようにしなければ。やはり教育なのだろうか。
5. 感染者を差別したり噂を広めたりする気はないが、県内は感染者が少ないので他県から大勢の人に来てほしくない気持ちはある。今回は、グループ討議はなかったが、その際の進行と書記は町職員の方にしてほしい。

■感染予防策への意見

1. 日南町にコロナ感染者が発生しないことを願っています。
2. 感染した場合、日南町からのサポートをお願いします。
3. とてもわかり易い内容、説明でよかったです。現在の生活も不安がたくさんありますが、将来的にずっと共生することを余儀なくされるのかもと、とても不安です。マスクとか消毒とかソーシャルデスタンスとか、どうしても人間関係がギスギスします。
4. いつ頃、終息になるでしょうかね。自分が感染者にならないように心がけていきたい。手洗い、消毒、マスク忘れないように。早くワクチンができれば良いと思います。元気な人は後回しでしょうか？
5. 岡山で仕事をしています。現場で体温測定等やっていますが、日南町にコロナを持ち帰らないように気を付けています。

■「コロナ禍の人権」についてさらに啓発を求める声

1. つねに話し合いが必要と思う。
2. コロナ禍での小地域懇談会の基本的な取り組みを全町民に知らせることは…？
3. 小地域懇談会もタイムリーな人権を取り上げて、町民に啓発していただき有難うございます。高齢化が進み出席できる人も減ってきましたが、それでもめげずに頑張ってくださいっていらっしゃることに敬意を表します。この素晴らしい人権センターの力を、学校の子どもたちの人権意識の向上に連携をとりながら力を借りればよいかと思うところです。
4. 町内に今日の事をアピールしましょう！
5. コロナ対策で少人数開催をやむなく行っていましたが、内容的には、多くの

参加者で実施すべきテーマだと思いました。

■感染への不安、有事に人権を守れるかの不安の声

1. 人権については大切なことだが、いざ事が起こると、どんな状況になるのか、するのかは不明。
2. 大変によかった。わかり易かった。コロナを憎んで人を憎まずと思っているつもりですが、身近になってくれば自信はありません。
3. 先々の時代にもコロナウイルス等のような菌が発生する予感がする。今のうちに対応できる人間になりたい。不安があるのは仕方ないと思う。

■コロナ禍の社会状況について

1. コロナ禍で心の交流も稀薄になってきました。この機に乗じボランティア弁当も作らなくなり、独りぼっちを実感する人も多いと思います。何か違うように思います
2. 世の中も技術革新が進み、情報が錯綜します。情報を入手しやすい状況だからその情報が正しかどうか、判断が必要になってくると思います。
3. 狭い日南で発生したら大問題になりそう。
4. 主人が病気で入院しているため、大阪から子どもが帰るといっても、県外だからと帰らせないでなく、電車でもいいのかと聞くが、やはり周りの目を考える親としてかわいそうだと思う。
5. SNSや報道に惑わされない、人が人に優しい世の中にならないものかと思っています。
6. 「コロナ」が終わってほしいです。
7. 特にないが「時代（中島みゆきの歌）」の詩のようになればいいのだが…。
8. 人間は善人ばかりでない。悪いことはダメというだけでは、人間社会はなり立ちません。悪い人には厳しい「けじめ」「処分」が必要。日本は加害者の人権を守りすぎていると思います。選挙権のある18才、19才の悪事には、氏名の公表があるべきと思います。
9. 福島原発事故以来、私はいまだ関東や東北、特に太平洋側の農産物は買うことはないです。海産物も同じ。わざわざ買う必要もないと思いました。一方、東北の復興は今でも気になることです。私にできることはしっかりと覚えておくこと。

4. 令和2年度 みんなの人権・小地域懇談会のまとめ

1. はじめに

令和2年度のみみんなの人権・小地域懇談会は、「コロナ禍に考える～感染症と人権～」をテーマにしました。今更申し上げるまでもなく、令和元年11月に初めて感染が確認され、その後、令和3年5月の現在に至るまで、世界中を席卷している新型コロナウイルスによる感染症が背景です。新型感染症発見の初期からさまざまな差別事象が現れて、今も続いています。感染拡大の第4の波が大きくなる中、東京五輪が近づき、開催の可否をめぐって、トップ選手（トップアスリート）の皆さんの人権までもが、論争の渦に巻き込まれて傷つけられています。

今回のコロナ禍で、これまで人権に関して起こってきたことの代表的な事案は、懇談会資料に挙げています。また、感染症の大流行（パンデミック）は、必ず多くの差別・偏見・誹謗中傷・排除・隔離・暴力といった人権を阻害する事象を伴うことは、過去の多くの事例から知られていることでした。このため、資料の前半には、コロナ禍で人権侵害が起こる仕組みを解説し、人権の尊重を訴える目的で、日本赤十字社が令和2年3月に発行した「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう」を使用し、後半は、過去の感染症における人権侵害の事例を、人権センターが書き加えてお話しました。ペスト、ハンセン病、HIV（エイズ）、それからウイルスと同じように目に見えないリスクとして、原発事故による放射性物質の拡散が生んだ、人と人、社会の分断についても触れてみました。歴史的にはそうしたたくさんの事例を持ち、その折々に反省してきたわけですが、今回のコロナ禍でも私たちは同じ過ちを繰り返しています。

コロナ禍に直面している中、感染による病気そのものの情報と同時に、人権侵害の事例もたくさん報道されていますので、懇談会参加者の皆さんも当事者意識を持って熱心に耳を傾けてくださいました。

2. 小地域懇談会の運営などについて

懇談会を開催し人が集まること自体が、新型コロナウイルスの感染拡大の危険性（リスク）がある行為です。しかしながら「感染症と人権」というテーマは、今、知って、今、考えていただきたい内容です。人権センターとしても開催の提案には苦慮しましたが、結局、各自治会の皆様の判断に委ねさせていただきました。「人権センターなり、町同和教育推進協議会なりで、開催する、しないの明確な判断を下すべきだ」とのご意見もいただきましたが、何卒ご理解ください。最終的には、33自治会のうち22自治会で開催され、それ以外の自治会でも懇談会資料の自治会内回覧や全戸配布などで協力いただきました。結果論ではありますが、皆さまのご配慮により幸い、懇談会による感染は確認されていません。

会場ではマスク着用、手指のアルコール消毒、換気に気をつけ、時間も1時間程度の短時間を目安に行いました。スライドで資料を投射し、ご覧いただきながら解説しました。参加者相互の話し合いは持たず、人権センターと会場とで若干の意見交換をいたしました。

3. お話した内容と資料の概要

【日本赤十字社の資料について】

日本赤十字社の啓発資料は「ウイルスの3つの顔」というキーワードで、感染症と人権との相関関係を説明しています。3つの顔は、①病気そのもの②不安、恐怖③偏見、差別のことです。ウイルスの第一の顔はもちろん病気を引き起こすこと。苦しみ、痛みがあり亡くなる場合もあります。感染する未知の病気でしたので、それが自分や家族に降りかかることへの不安や怖れが生まれ、感染拡大に伴いどんどん大きくなります。社会全体を覆います。これがウイルスの引き起こす2つ目の問題です。死に至るかもしれない病への不安や怖れは、人間の生存本能を刺激します。新しい病気が見つかった当初の「敵」は新型ウイルスであったのに、行政や衛生、医療による対処、改善がなかなか進まないなかで「敵」が感染拡大の周辺にある別の人や事象にすり替わっていきます。不安が解消できないストレスによって苛立ちの矛先が、目に見えないウイルスの代わりに目に見える人間や、対応策のあり方に向けられていきます。「誰が、あるいはどの国がウイルスを広めたのか」「誰が日本に持ち込んだのか」「誰が拡散したのか」「拡大予防のルール破りをしている者はいないか」「対応策が間違っていないか」…様々な情報が溢れ錯綜し、先入観、偏見と入り混じって、攻撃する相手はどんどん広がっていきます。そうして作り上げた「仮想の敵」を国民あげて叩きます。

ネット社会の中、刺激的なデマほど拡散は速く広く、ネット上での犯人探し、誹謗中傷があふれ連鎖して、現実世界での暴力的な言動に至ります。ウイルスの3つ目の怖い顔はこうして生まれる人権の侵害と人と人との分断、共生社会の破壊です。そして日赤が書いているのが「負の連鎖と拡大」です。感染すれば誹謗中傷を受け、排除されることは、誰もが予想できます。すると自らが感染している可能性を感じても、確認しない、隠そうとするようになります。これも自分を守るがための本能の結果です。そして感染したまま、日常生活を送れば、周囲の人へ感染が広がり、感染の拡大再生産を循環させることになります。これは感染症というものが、人間の本質の負の部分で、社会に向けてさらけ出させ、人権上大きな問題を生む構造を端的に示していると思います。

【過去の感染症における事例について】

説明の後半は、人権センターで加筆した資料で、過去、感染症の流行によって起こった人権侵害などについてお話をしました。

（ペスト）

古代から世界中で恐れられてきたペスト。中世の欧州では、宗教上の理由で差別されていたユダヤ人が「井戸に毒を入れた」との噂によって虐殺されたと言われています。同じようなことが、大正時代の関東大震災後の日本でも起こっています。在日朝鮮人が震災の混乱に乗じて「井戸に毒を入れた」というデマが流れ、「正義の」自警団や市民が朝鮮人の方たちを探し出し暴行を加え、殺害にも至っています。感染症の大流行にせよ、天災にせよ、大きな災害時には人間は恐慌（パニック）に陥ります。病原菌・ウイルスにも、天災にも抗えない人間は、自分の立ち向かうべき相手をすり替えて攻撃し、痛めつけることで、災害に打ち勝ったという自己満足を求めてしまうようです。今回のコロナ禍で「自粛警察」「帰省警察」「マスク警察」と呼ばれる集団が現れましたが、これも「正義」の名のもとに活動していると思います。他者の生命や治安を守ろうとする熱意を全否定は出来ませんが、行き過ぎた言動は他者を傷つけることもあります。冷静で客観的な視点を失わないよう心がけねばなりません。

（ハンセン病）

ハンセン病の歴史も振り返りました。これは古代から世界中で、罹患者が差別を受けてきた感染症です。感染症と分かるまでは、遺伝病とされ、患者の家族、親戚も忌避、差別の対象でした。日本では明治政府の制定した「らい予防法」により、患者の方たちは強制的に離島や奥山の施設に隔離され、社会からその存在を消し去られました。治療薬ができ、完治する病気になりましたが、過去の経緯から多くの元患者の方は社会に復帰することなく施設で最期を迎えられる方がほとんどのようです。突然連行された施設でそのまま一生を終えられる哀しみ、苦しみも、感染症罹患者に対して、社会が人権を認めなかった結果だと思っています。

（H I V ・エイズ）

H I V（エイズ＝後天性免疫不全症候群）にも触れました。1980～90年代に世界を席卷した感染症です。発見後しばらく治療法がなく死の病でした。その間、多くの人権問題を浮き彫りにしました。性的な行為によって感染しやすい面があったため、当初は特に、男性の同性愛者特有の病気として、宗教的なモラルから攻撃対象となり、罹患者には「背徳による天罰」だ、という誹謗中傷を浴びせられました。その後、血液と粘膜を介して誰にでも感染することが分かって

も、罹患者が背徳者であるという偏見は拭われませんでした。罹患された方の一部は、服薬していた薬にウイルスが含まれていたことにより感染されたのですが、そうした方たちも同様の偏見や差別の対象にされました。本来の敵はウイルスであるにも関わらず、信仰上の規範や性的なモラル意識と結びつき、背徳的な病気というイメージが形成されて、性的少数者への偏見、差別を助長し、治療できるようになった今も残っているように思います。また薬害事件から考えると、世界で今も残る売血、血を売ることでお金を得る方たちの存在も思います。先入観かもしれませんが、やむを得ない事情があるかと思います。貧困という大きな問題が根底に横たわっているとも考えます。

（原発事故）

そして、東日本大震災での原子力発電所の事故による放射性物質の問題です。もちろん感染症ではありませんが、ウイルスなどと同じように目に見えず、人間に危害を与えるかもしれない放射性物質が拡散し、世界中に脅威を与えました。原発の稼働そのものは人為的なことなので不条理とは言えませんが、エネルギー論であつたり経済論であつたり、核兵器保持による戦争抑止論であつたり、国家を超えたレベルの巨大な事情を孕んでいるため、私たち庶民は本質論に届きません。やがて再び反原発派と推進派がお互いを敵として戦うことになりました。放射能が人体に危険なのか、危険でないのかもいつまでたっても議論は平行線です。しかし、放射性物質の拡散、事故処理の中で、地元の方たちの人権はどうなっているのでしょうか。強制退去、転居地での偏見や忌避、学校でのイジメ、農水産物の販売不振、困難な生活再建…。事故処理もまったく先が見えていません。原発に対する賛否はともかくも、見えない、分からないリスクによって多くの人権が踏みじられたまま、という現実はあると思っています。

【社会的恐慌（パニック）と人権】

日本赤十字社の解説からも、過去の感染症等の事例からも、大きな危険・危機に見舞われた時、人間の心は不安と恐怖に支配されて、どうにもできない苛立ちで攻撃的になり、他者の人権を損なうことを繰り返しています。特に矛先を少数派に向けがち。過去の事例から学んでいたはずですが、歴史は繰り返しています。

【将来の先輩としての若者たち子どもたち】

感染症の、直近の世界的なパンデミック（大流行）は、約100年前のスペイン風邪のようです。今回のコロナ禍ではその経験のある方はほとんどおられないはずで、世界中が素手で立ち向かい、試みの失敗と成功を編んでいます。思うのは、今の若者、子どもたちはこのコロナ禍を経験しながら成長しています。ま

だコロナ禍が終息していないので気が早いかもしれませんが、次のパンデミックがまたいつ来るか分かりません。その時に、今の若者、子どもたちはコロナ禍のこの混乱の経験値を持っています。それが有効に生かされ、危機に際して、この度のような混乱に陥らない社会が築かれているよう期待しています。そのためには、私たち大人たちが今、少しでもより正しい振る舞いを模索し、実行して若年層に示すことが必要なのではないでしょうか。

【現下で予想される人権上の最大の議論】

国による「緊急事態宣言」が繰り返し発令されています。現在では人の移動の自粛や、一定のリスクのある営業活動の抑制、多人数の会食や宴席の自粛等々が「要請」されていますが、事態がさらに厳しくなれば「命令」という厳格な措置が必要となるのかもしれませんが。無論、ずっと都市閉鎖などの厳しい措置で感染の封じ込めを図るべきだという意見は多々あると思います。しかし、ここに出てくるのが、国家による「個人の権利＝基本的な私権」の制限をどう考えるかという議論です。「生命か人権か？」といった話でもあり、人権尊重も命あつてのモノダネではあるでしょう。このあたりに来ると憲法論にも入ってきます。議論はあつて良いと思うのですが、ただ「これをチャンスに憲法改正を」と訴えられる方があると聴いてかなり驚きました。「やむを得ないので」くらいでしたら理解できますが「チャンスに」と言われると、ちょっと…。感染症で亡くなった方、苦しんでいる方、収入を失くし困窮する方、非日常を強いられて耐える方…そうした国民を踏み台にどこかへ登ろうとする方があるなら、憲法を変えることはより難しくあるべきかとも思います。民主制国家の憲法はそもそも国家権力の濫用を防ぐためにあるのですから。

【国民の実相は？】

コロナ禍で仕事を失くしたり、収入が大きく減った方がたくさんおられると思います。しかしながら5月現在、マスコミに現れるのは日々の感染者数、死亡者数、ワクチン接種の進捗、医療体制の逼迫、人の流れの動向、東京五輪の開催の是非がほとんどで、多くの国民を襲っているであろう生計、生活困難の現状が見えてこないようで戸惑っています。過去増加してきた非正規就労者、ひとり親家庭、また、いわゆる貧困層、労働力の補完として招かれた外国人研修生などなど、日本社会の脆弱な部分をコロナ禍が浮き彫りにしていると思います。これらは、この機に考え直さなければならないところではないでしょうか。

医療体制にしても、数年前には公立病院の再編（特に過疎地における削減）が国レベルで打ち出されていました。ところが今はどうでしょうか。医療体制の不足が訴えられています。昨年、コロナに罹患して回復し退院した英国首相が、廃

止しようとしていた税金で賄う国民皆保険制度の維持を表明し、これまで蔑視していた女性で移民である看護師に対し絶大な感謝を述べた出来事と同じように、痛みの経験を糧に、生命や人権を支える社会基盤のあり方についても再度、議論が必要かと思います。

4. ご意見・ご感想から

基本的に、会場での感想やご意見、アンケートには、時機を得たテーマ・話題で良かった、考える機会になった、といった声をたくさん頂戴しました。開催して良かったと胸をなでおろしている次第です。それらすべてを前掲していますが、一部を次に紹介します。

・発言や記載いただいたほとんどの方が、コロナ禍の人権侵害について、その仕組みや原因への気づきがあった。難しい面はあるが、過度な偏見を持ったり、差別しないように心がけたいとの趣旨を述べていただきました。私自身も、きれいごとで済まない場面の多い課題だと思っています。繋がりを断たないように、と言ってもコロナ前のように集まって交流したり、ふれあったりができません。また、感染の危険性（リスク）から逃げたり、遠ざけたりするのは至極当然のことです。どのように両立するか、困難さを理解されながらも、人権の尊重に前向きな意見を述べられることに敬意を感じます。

・言葉にしにくい本音を教えてくださった方もありました。感染された方の中には、批判されても仕方がないケースもあるのではないかと？往来の自粛が求められている都市に出かけ、リスクの高い場所で楽しんで感染されたのは自己責任である。というものです。これはとても悩ましいお話です。県内、町内のほとんどの方が自粛して我慢の日々を送られているわけで、私も含め、誰もの胸の奥には残る感情だと思います。感染拡大防止のために反省は促されるべきでしょう。しかし度を越した誹謗中傷でその方を追いつめることも避けるべきかと思います。

・違う切り口からの発言もありました。家畜の感染症、例えば鳥インフルエンザが1羽見つければ、その養鶏場の何万羽の鶏は殺されてしまう。人間と同じ命として、鶏もワクチン接種などで救うことはできないのかな？あるいはトキやコウノトリといった希少種が鳥インフルのような感染症にかかったら、人間は殺すのだろうか？というものです。養鶏場と同じ理屈を適用すれば、コロナ感染者が一人出た地域の人々は強制隔離されるべき、になるでしょう。（都市封鎖は似ているかもしれませんが）考えさせられました。ちなみに昨今は家畜の飼育環境の改善が国際的規模で求められています。

・先述と繰り返しになるかもしれませんが、感染のリスク回避と差別との線引きの難しさも多くありました。これは、コロナが目に見えないウイルスの空気・飛沫感染により広まることから、一層の難しさがあると思います。忌避していなくても回避はしなければならない。お客さんの減った知り合いの飲食店に食事に行きあげたいけれど、行けない。旅行や観光関係の業界も困っているのだから、旅行して泊まってあげたい、けど危ないかも。相互の支え合いや支援も難しいバランスを求められています。

・マスコミ、特にテレビがコロナ一色で洗脳されそう、というお話もありました。日赤も私も、あまりコロナの話題ばかりを追いかけるのは良くないのではと考えています。いつの間にか自分を危機感の中に追い込んでしまったり、多過ぎるコメントで混乱したり。日赤の資料にあるとおり、少し情報から距離を置いて、心を休めて、自身のコロナストレスを上手に吐き出す工夫が必要のようです。

・町の感染者第1号にはなりたくない、という声はたくさんありました。本音だと思います。現実には、どんな内容であれ噂の対象にはなってしまうからです。5月時点で町内の感染はありません。このままが良いのですが、もしどなたかが感染されても、誹謗中傷したりしない町でありたいと、退院後、笑顔でお帰りと言えようになりたい、と、これも多くの方が書いてくださいました。

・膨大な情報の中で、その選別を正しくできるようになりたい。学びつづけて「気づく力」をつけたいとの感想もありました。情報化時代、ネット社会で、情報の波に飲み込まれないように正しい知識を蓄えて、人権感覚に基づいた自分の価値観をしっかりと持つことは、一層、大切になっていると思います。

5. おわりに

今回のコロナ禍は、世界中で本当に多くの課題を浮き彫りにしていると思います。国家間の関係性から、衛生や医療の体制、新型の感染症の到来は予測されていても、実際には為すすべがなかったこと、恐慌が人権をどんなふうに脅かすのか、日常が壊れた時、暮らし、経済、教育などすべてをどう維持するのか。目前に迫った東京五輪を巡っても課題は山積しています。トップ選手たちも、競技以外の部分で騒動に巻き込まれて、個々の人権にまで踏み込まれているように見えます。一応の安定した日常が続く日々では気づかなかった社会の脆弱性や人の心の弱さ。コロナ禍が、それらを取り繕っていたものを洗い流して、見せてきます。私自身もコロナを巡る一連の出来事の中で、誰かや、対策の手法や、あれこれに不満と批判的な思いを抱えがちです。それが、私自身の内面の恐慌

(パニック) やストレスが生む攻撃性かもしれません。未知の巨大な災害への対応がそう簡単なはずはなく、短絡的な救済があるはずはありません。必要な声はあげながら、冷静でいることが必要だと思います。突き付けられているさまざまな課題のそれぞれの局面で、基本的人権が守られることを価値基準として学び、考えていかなければならないと考えています。

本町でもワクチン接種がはじまり現在、順調に進められています。日本や世界全体の社会の混乱の特効薬になるかどうかはこれからですが、コロナ後、あるいは、コロナとの安定した共生の到来を待ちたいと思います。その頃にはコロナ禍の反省が、世の中を少し良いものに変えていたら良いですね。

(了)

最後に…【世界の名言からひとつ】

“ 愛の反対は 憎しみではなく 無関心である ”

マザー・テレサの有名な言葉だそうです。「愛という言葉の反対は？」と問われると、つい「憎しみ」と返しそうなのですが、この名言の答えは「無関心」なのだそうです。他者や社会や世界に関心を持つことは、すべてが「愛」とまでは言えないにせよ、少なくとも自分にとって、それらが大切なものであることの証かもしれません。

コロナ禍は、実際に物理的に人と人との距離を遠ざけました。それは、自分を取り巻く世界への関心を削ぎおとすことに繋がり、この言葉に従って言えば、結果、世界への愛をなくすことになるかもしれません。自己愛だけが残された寂しい個人が一人ずつ立ちすくむだけ。

コロナ後がそんな荒涼とした風景に支配されないように、隣人から世界まで関心を寄せて、自ら前向きに考え続け、今を生活することがコロナ後への助走のひとつなのでしょう。